

山形テルサ指定事業
東北にシューベルトを！企画

高橋アキ シューベルト 三大遺作 ソナタ・コンサート



語るように、歌え。

瞬間のきらめきと生の深淵。

F.シューベルト作曲

ピアノ・ソナタ第19番 ハ短調 D.958

ピアノ・ソナタ第20番 イ長調 D.959

ピアノ・ソナタ第21番 変ロ長調 D.960 (遺作)

Aki Plays Schubert Piano Sonatas

2016年10月13日(木) 19:00開演(開場18:15) 山形テルサホール (JR山形駅西口駅前、TEL 023-646-6677)

■チケット(全席自由)発売中! ■ ●前売券: 一般 4,000円(テルサ会員 3,600円) ●ペア 7,000円(前売りのみ、テルサ会員 6,400円)
●シニア 65歳以上 3,500円(テルサ会員 3,200円) ●学生(大学生以下) 2,000円(テルサ会員 1,800円) ●被災地からの避難者
1,000円(案内状とともにマルメロか山形テルサにお申し込み下さい) ▲当日券: 一般 4,500円 シニア 4,000円 学生 2,500円

*未就学児の入場はご遠慮ください。 *テルサ会員価格でチケットをご購入いただけるのは、山形テルサに限ります。

チケット発売: 山形テルサ、マルメロ、NPO法人 Mプロジェクト(090-5234-1223)、富岡本店、十字屋山形店、八文字屋 Pool、大沼本店、辻楽器店、
ミュージック昭和、TENDO 八文字屋、白鷹町文化交流センター AYU:M、大沼米沢店、音楽 Azm 館米沢店、ほか

お問い合わせ・予約: マルメロ tel 090-2435-1654 fax 03-5627-7584 e-mail: marmeloyama@gmail.com

主催: マルメロ 後援: 山形市教育委員会 協力: カメラータ・トウキョウ、国際フランス・シューベルト協会、NPO法人 Mプロジェクト、白鷹町文化交流センター AYU:M 他

31歳で夭折したシューベルトが、最期に遺した 珠玉のピアノ・ソナタ群の真実に、 高橋アキが辿り着いた境地！

世界中の現代の作曲家から絶大な信頼をおかれ、半世紀にわたり、多くの名作や難曲の初演 / 演奏をおこなってきたピアニスト、高橋アキさん。クラシックに飽き足らず、未知の音楽への興味と共感で、音楽のゆたかな地平と未来を切り拓く一方、エリック・サティ再発見の立役者としても国内外で大活躍を続けてきました。

そのアキさんが、近年、意外にもシューベルトのソナタをライフワークの一つとして取り組んでいます。

2009年4月27日。東京文化会館「高橋アキ シューベルト三大遺作ソナタを弾く！」で体験した感動を、私は生涯忘れないでしょう。

ピアノという一見肉声から最も遠い特性をもつ楽器が、シューベルトが生きたその時まで下降するかのような語り口で、生と死がせめぎあう〈歌〉を響かせ始めたのです。

誰にでもある(あった)、日々のいとなみ。

憧れや喜び、痛みや失意。ゆっくりと歩いてみたり、我を忘れて駆け出したり、ふと立ち止まっては雲を見上げたり、微笑み合ったり…。そんな何気ない人生の瞬間が、詩のように弾み、連なり、生命のダンスのようにみずみずしい感度で立ち上がる。まるで自身の記憶や感覚の迷宮をさ迷い歩くような、寄せては返す音のタペストリー(綴れ織り)の世界。

時折、迫り来る死の影や絶妙な〈間〉(休符を超えた豊穣な沈黙!)の余韻が、さらにドラマティックに生の深淵を浮かび上がらせる。休憩含め2時間半。

親しかった今は亡き人からの手紙、あるいはその人そのものに思いもかけず再会できたような親しみ、深くあたたかな感情。湧き上がる内面のドラマは、それぞれ違うでしょう。ただ、この人類へ遺された希有な〈手紙〉を、私は私の郷里の多くの人や震災で避難 / 移転された方々にも聴いてほしいと、心から願うのです。

誰よりも深い楽譜の洞察とするどい感性。そして円熟した表現力で滋味深く、愛を込めてあざやかに奏でるアキさんの〈今〉の音に出会ってほしいと思うのです。(斎藤朋・マルメロ)

高橋アキ (ピアノ)

鎌倉生まれ。東京芸術大学大学院修了。大学院1年の時、武満徹作品を弾いてデビュー。透明な響き、音色の柔軟な感受性をもって現代曲を演奏し、鮮烈な衝撃を与えた。1970年初リサイタルを開催。72年にはじめてヨーロッパに渡り、ベルリン芸術週間、ババの芸術祭などでリサイタルを開き好評を博す。その後も毎年、海外の主要音楽祭から招待され続けている。75年より「エリック・サティ連続演奏会」(12回)を企画構成の秋山邦晴とともに開催、「サティ再発見」の大きな契機となった。自ら企画構成・演奏した「高橋アキ 新しい耳」シリーズでは多数のソロまたはアンサンブル作品を委嘱初演、ピアノ・ドラマティックシリーズと合わせ画期的なコンサート開催で高い評価を受ける。現代音楽のバイオニアとして世界で活躍を続け、73年度芸術祭優秀賞、83年第1回中島健蔵賞、86年第1回京都音楽賞・実践部門賞、2003年第21回中島健蔵賞、平成20年度文化庁芸術祭優秀賞、平成23年秋の紫綬褒章を受章。レコーディングにも意欲的に取り組んでおり、「シューベルト・ピアノソナタ集」と「モートン・フェルドマン・トリオ」コンサートの演奏により、平成19年度(第58回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。これまでに、カメラータ・トウキョウから5枚のシューベルト・ピアノソナタをリリースしている。

<http://www.aki-takahashi.net/>

- 「シューベルト：ピアノ・ソナタ D.960&D.664」／高橋アキ CMCD-28141 / 3,024円(税込)
- ★2007年度(第58回)芸術選奨【文部科学大臣賞・音楽部門】受賞
- ★「レコード芸術」2007年11月号【特選】 ★「音楽現代」2007年11月号【推薦】
- ★「レコード芸術」2008年2月号 第32回リターンズ・チャイス【器楽曲部門第6位】【総合第20位】
- 「シューベルト：ピアノ・ソナタ D.958&D.959」／高橋アキ CMCD-28193 / 3,024円(税込)
- ★「レコード芸術」2010年2月号【特選】



Fr. Schubert

耳に聞こえない世界からの、静寂から起こり静寂に帰す芸術。…高橋アキの演奏はまさにこれらのソナタの宇宙性を体現する。

茂木一衛(音楽現代 2009年6月号、コンサート評より)

高橋アキのシューベルト、これは見過ごすことのけっしてできない、近來の“事件”にほかならない。

私などがここに言うまでもなく、高橋アキは長い芸歴のうちで、つねに「現代音楽のスペシャリスト、エキスパート」の地位にあってきたピアニストである。その彼女が、少なくとも私たちには思いがけなくもシューベルトを弾く。それも、深ぶかとロマンティックな最後の《ソナタ》D960と通常最も愛らしい1曲とされている“小イ長調”D664を取り上げて、である。だが、聴き進むうちに、そのような先入観による意外性は、どこへともなく薄れ、消えていく。そこに響いているのは、疑いもなく、一流のピアニストからしか発せられない類の、深く、重く、しかも美しいメッセージなのだから。変ロ長調ソナタは、抒情性と共に、秘められたドラマ性をも心して描き出した演奏であるが、特筆したいのは、それがけっして外側からの巧まれた造形ではなく、間違いなく内側からにじみ出るものの実感を伴うことである。言い換えれば、これは私がこれまで、愛して止まぬこのソナタにおいて聴いた、最も感動的な演奏のひとつである。

濱田滋郎(レコード芸術 2007年11月号・特選盤)

D960の特別な1枚。《歌の力》を確信させるシューベルトの真髓。漂うウィーンの香り、吸引力抜群のシューベルト。遠雷のようなトレモロ、深い余韻と沈黙の力。

第1楽章、テンポとダイナミズムが的確、シューベルトの吐息と体温がじかに伝わってくる。第2楽章でもひとつひとつの音が噛みしめられ、感じられ、考えぬかれ、意味が的確に汲み出されている。沈黙の意味をよく理解した演奏で、一歩一歩反芻しながら歩んでゆくなか、沈黙のなかからしだいに「歌」がにじみ出てくる。孤独を養分とした「歌」は「愛」になる。その沈黙と孤独の弁証法に通じたまねな演奏だ。つづき第3&4楽章では、この「歌」の意味を知るもの同士の親密なユートピアが夢見られている。実に理想的な展開で、この曲の愛聴盤になりそうだ。

喜多尾道冬(レコード芸術 2007年10月号・文芸批評)

高橋アキ シューベルト 三大遺作 ソナタ・コンサート
2016年10月13日(木) 19:00開演(開場18:15)
山形テルサホール

JR山形駅西口徒歩3分
TEL 023-646-6677
①は駅西花笠パーキングなど

東北にシューベルトを!

亡き人に…そして、今は亡き人を想う人に捧げる